

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 29 年 3 月 16 日 (2017.3.16)

【公表番号】特表 2016-507532 (P2016-507532A)
 【公表日】平成 28 年 3 月 10 日 (2016.3.10)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-015
 【出願番号】特願 2015-556343 (P2015-556343)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)
 A 6 1 P 31/10 (2006.01)
 A 6 1 P 31/04 (2006.01)
 A 6 1 K 31/35 (2006.01)
 A 6 1 K 31/7048 (2006.01)
 A 6 1 K 31/5375 (2006.01)
 A 6 1 K 31/7036 (2006.01)
 A 6 1 K 31/505 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 P 31/10
 A 6 1 P 31/04 1 7 1
 A 6 1 K 31/35
 A 6 1 K 31/7048
 A 6 1 K 31/5375
 A 6 1 K 31/7036
 A 6 1 K 31/505
 A 6 1 P 31/04

【手続補正書】
 【提出日】平成 29 年 2 月 7 日 (2017.2.7)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更

【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

対象における局所細菌性微生物感染を処置又は予防する方法であって、ナラシン、サリノマイシン、サラロシド、モネンシン、センデュラマイシン、マデュラマイシン及びライドロマイシンから選択されるポリエーテル系イオノフォアまたはその治療的に許容し得る塩の治療有効量を前記対象に投与するステップを含み、前記イオノフォアが局所的に適用される、方法。

【請求項 2】

前記投与が、前記対象の皮膚、鼻孔、外耳道または目に対するものである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記ポリエーテル系イオノフォアが、 $5 \mu\text{g} / \text{mL} \sim 900,000 \mu\text{g} / \text{mL}$ の範囲内の濃度の前記ポリエーテル系イオノフォアを含む投与剤型で前記対象に投与される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記ポリエーテル系イオノフォアが、 $16 \mu\text{g}/\text{mL} \sim 52 \text{mg}/\text{mL}$ の範囲内の用量で前記対象に投与される、請求項3に記載の方法。

【請求項5】

前記細菌性物質が、スタフィロコッカス・エピデルミディス、スタフィロコッカス・シミュランス、スタフィロコッカス・フェリス、スタフィロコッカス・キシローサス、スタフィロコッカス・クロモゲネス、スタフィロコッカス・ワーネリ、スタフィロコッカス・ヘモリチカス、スタフィロコッカス・シウリ、スタフィロコッカス・サブロフィチカス、スタフィロコッカス・ホミニス、スタフィロコッカス・カブラエ、スタフィロコッカス・コーニイ亜種コーニイ、スタフィロコッカス・コーニイ亜種ウレアリチカス (*Staphylococcus cohnii subsp. urealyticus*)、スタフィロコッカス・キャピティス亜種キャピティス、スタフィロコッカス・キャピティス亜種ウレアリチカス、スタフィロコッカス・ハイカス、スタフィロコッカス・アウレウス、スタフィロコッカス・シュードインターメディウス、スタフィロコッカス・デルフィニ、スタフィロコッカス・シュレイフェリ亜種コアグランス、スタフィロコッカス・アウレウス亜種アネロビウス、ストレプトコッカス・ウベリス、ストレプトコッカス・アガラクチエ、ストレプトコッカス・ディスガラクチエ、ストレプトコッカス・ピオゲネス、ストレプトコッカス・ボビス、ストレプトコッカス・エクイ亜種ズーエピデミクス、ストレプトコッカス・エクイヌス、パチルス・メラニノゲニカス、パチルス・プミルス、パチルス・リチェニフォルミス、パチルス・セレウス、パチルス・サブチリス、パチルス・アントラシス、エンテロコッカス・フェシウム、エンテロコッカス・フェカリス、エンテロコッカス・デュランス、リステリア・モノサイトゲネス、クロストリジウム・パーフリンゲンス、クロストリジウム・ディフィシル、アクチノマイセス・ボビス、プロピオニバクテリウム・アクネス、プロピオニバクテリウム・グラヌロスム、エウバクテリウム、ペプトコッカス・インドリカス、およびペプトストレプトコッカス・アネロビウスを含む群から選択される、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

ナラシン、サリノマイシン、サラロシド、モネンシン、センデュラマイシン、マデュラマイシン及びライドロマイシンから選択されるポリエーテル系イオノフォアまたはその治療的に許容し得る塩の治療有効量と、場合により医学的に許容し得る賦形剤または担体とを含む、局所細菌性微生物感染を処置または予防する方法に用いられる場合の医学的抗菌組成物。

【請求項7】

獣医学的抗菌組成物であることを特徴とする、請求項6に記載の医学的抗菌組成物。

【請求項8】

リンス、シャンプー、ローション、ゲル、リーブオン調製剤、ウォッシュオフ調製剤、および軟膏を含む群から選択される形態である、請求項6または7に記載の組成物。

【請求項9】

抗生物質および抗真菌薬を含む群から選択されるさらなる抗菌薬を含む、請求項6～8のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項10】

キレート化剤を含む群から選択される賦形剤を含む、請求項6～9のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項11】

請求項1～5のいずれか1項に記載の、対象における局所細菌性微生物感染を処置または予防する方法に用いられる場合の医療用デバイス。

【請求項12】

請求項6～9のいずれか1項に記載の組成物を含む医療用デバイス。

【請求項13】

前記対象の皮膚、鼻孔、耳道または目の局在的な細菌性微生物感染に提供されるクリーム、ローション、軟膏、ゲル、膏薬、包帯、およびドレッシング材の即時放出または持続

放出形態を含む群から選択される形態である、請求項 1 1 または 1 2 のいずれかに記載の医療用デバイス。

【請求項 1 4】

対象における局所細菌性微生物感染の処置または予防用の薬剤の製造における、ナラシン、サリノマイシン、サラロシド、モネンシン、センデュラマイシン、マデュラマイシン及びライドロマイシンから選択されるポリエーテル系イオノフォアまたはその治療的に許容し得る塩の使用。

【請求項 1 5】

前記投与が、前記皮膚、鼻孔、外耳道または目の表在構造への投与による、請求項 1 4 に記載の使用。

【請求項 1 6】

前記ポリエーテル系イオノフォアが、 $5 \mu\text{g} / \text{mL} \sim 900,000 \mu\text{g} / \text{mL}$ の範囲内の前記ポリエーテル系イオノフォアの濃度の投与剤型で前記対象に投与される、請求項 1 4 に記載の使用。

【請求項 1 7】

前記ポリエーテル系イオノフォアが、 $16 \mu\text{g} / \text{mL} \sim 52 \text{mg} / \text{mL}$ の範囲内の用量で前記対象に投与される、請求項 1 6 に記載の使用。

【請求項 1 8】

前記細菌性物質が、スタフィロコッカス・エピデルミディス、スタフィロコッカス・シミュランス、スタフィロコッカス・フェリス、スタフィロコッカス・キシローサス、スタフィロコッカス・クロモゲネス、スタフィロコッカス・ワーネリ、スタフィロコッカス・ヘモリチカス、スタフィロコッカス・シウリ、スタフィロコッカス・サブロフィチカス、スタフィロコッカス・ホミニス、スタフィロコッカス・カブラエ、スタフィロコッカス・コーニイ亜種コーニイ、スタフィロコッカス・コーニイ亜種ウレアリチカス、スタフィロコッカス・キャピティス亜種キャピティス、スタフィロコッカス・キャピティス亜種ウレアリチカス、スタフィロコッカス・ハイカス、スタフィロコッカス・アウレウス、スタフィロコッカス・シュードインターメディウス、スタフィロコッカス・デルフィニ、スタフィロコッカス・シュレイフェリ亜種コアグランス、スタフィロコッカス・アウレウス亜種アネロビウス、ストレプトコッカス・ウベリス、ストレプトコッカス・アガラクチエ、ストレプトコッカス・ディスガラクチエ、ストレプトコッカス・ピオゲネス、ストレプトコッカス・ボビス、ストレプトコッカス・エクイ亜種ズーエピデミクス、ストレプトコッカス・エクイヌス、バチルス・メラニノゲニカス、バチルス・プミルス、バチルス・リチェニフォルミス、バチルス・セレウス、バチルス・サブチリス、バチルス・アントラシス、エンテロコッカス・フェシウム、エンテロコッカス・フェカリス、エンテロコッカス・デュランス、リステリア・モノサイトゲネス、クロストリジウム・パーフリンゲンス、クロストリジウム・ディフィシル、アクチノマイセス・ボビス、プロピオニバクテリウム・アクネス、プロピオニバクテリウム・グラヌロスム、エウバクテリウム、ペプトコッカス・インドリカス、およびペプトストレプトコッカス・アネロビウスを含む群から選択される、請求項 1 4 に記載の使用。